

(1) 令和4年度 教職員による自己評価 及び 学校関係者評価

静岡雙葉中学校・高等学校

評価項目		自己評価	学校関係者評価	
1	宗教教育の充実・精神性の涵養 ①宗教の授業、宗教行事、聖堂での朝の祈り、朝礼時に聖歌を歌うことを通して、豊かな心を育む。 ②精神性を育むために、学年毎の1年間の経営計画に則って、多面的に活動する。	A	A	静岡雙葉での宗教教育は、卒業してからの生き方の糧となっていると高く評価されている。今後も神父様方の協力を受けながら是非継続、発展させて欲しい。
	【実践と自己評価】 宗教行事は全て年間計画通りに実施できた。特に宿泊を伴う宗教研修では、それぞれ経験豊かな神父様の指導により実りも大きく、生徒同士の関わりを育て、精神性を涵養する場となった。			
	【学校関係者評価を受けて】 今後も、生徒が人生を歩む上での精神的支え、柱を育むことができるように、聖書の価値観、人間観を知らせ、宗教行事などの取り組みを継続、発展させていきたい。			
2	学習指導の充実・学力の向上 ①学年毎の教育計画、各教科の実践計画に基づき、計画的に教科教育を実施する。 ②基礎・基本の定着、授業中心の学習体制の確立により、学力の向上を図る。 ③教員1人ひとりがより良い授業を行うための具体的な取り組みを行う。 ④6学年全部の生徒に配布された個人持ちのiPadや他のICT機器を有効に活用し、主体的学習や、情報を収集、整理、発信する学習活動が行われるような授業展開について更に研究し、実践する。 ⑤知的好奇心を高めるため、また視野を広げるため、(オンラインによるものを含む)海外研修、英語検定試験等の各種検定、大学が企画するセミナー、公開講座への積極的参加を促す。	A	A	コロナ禍による様々な困難に適切に対応し、生徒の学びを保障してきたことは大変評価できる。各教科で6ヶ年を見通した学年毎の指導計画が作られ、それに基づいて学習指導がなされていることが、学力の向上、定着に役立っていると考え。生徒が自分で課題を見つけ、主体的、能動的に学習に取り組み、その成果を発表、共有することは、国が目指す新しい学びの形である。そのためにもICT機器を有効に使用した授業等の研究を更に進めて欲しい。生徒の視野を広げる様々な企画も、是非継続して欲しい。
	【実践と自己評価】 ①②コロナ感染症対応として、希望の生徒の家庭に教室授業を配信する方法で対応した。前期末に通知表を渡した後、中学生は10月に保護者面談を行い、学習や生活についての指導を行った。			
	【学校関係者評価を受けて】 年間の指導計画に基づきながらも、教員一人ひとりが授業をより良いものにする努力をすることが求められる。ICT機器は、様々な場面で有効に活用できるよう研究を進めたい。			
3	自律性や社会性及び公共心の育成(生徒指導) ①基本的な生活習慣の確立に努める。 ②自律心、公共心及び社会的規範意識の育成を図るとともに、スマートフォンやインターネット、SNSの功罪、注意点について学ぶ。 ③社会性、自治能力、自律心の育成を図るため、生徒会活動、委員会活動、学級・学年活動を充実させる。 ④豊かな精神性を培うため、福祉施設(クリスマス)訪問、ボランティア活動、各種献金活動を充実させる。	A	A	基本的な生活習慣や公共心、社会性を身に着けることは、将来社会人として生きていくために不可欠である。家庭と協力しつつ、学校では時代に合わせ、インターネットやSNSに関する最新の情報に基づいた指導等を続けて欲しい。生徒有志の企画による「FUTABA中高生PEACEプロジェクト」の講演会には、保護者や外部の方の参加もあり大変実りのあるものであった。また、コロナ禍にあってもクリスマス訪問を継続してきたことは、とても評価できる。
	【実践と自己評価】 ①中1、2は「生活の記録」、中3、高1は手帳による時間管理により、生活習慣、学習習慣の確立を併せて指導している。②中1は技術家庭の授業でも情報モラルやiPadの適切な使用法を指導した。高1では外部講師による情報モラルについての講演会を実施した。③生徒有志による「FUTABA中高生PEACEプロジェクト」として様々な講演会を実施したり、活動費のためのクラウドファンディングを行ったりした。			
	【学校関係者評価を受けて】 ICTに限らず、基本的な生活習慣の確立や公共心の育成のためにも、なお一層家庭と連携を図っていききたい。自主的な活動については、生徒たちの発案をできるだけ支援したい。			
4	たくましく未来を切り開く力の育成(進路指導) ①著名人や大学教授、先輩等による講演、校外のオープンセミナー、大学見学、海外研修等の様々な体験活動等への生徒の積極的参加を促す。 ②大学入試の最新情報を把握し、的確な進路情報を生徒・保護者に提供する。 ③昨年度で初めて3年間の1サイクルが完了した中3～高2の「コース制」の取り組みを振り返り、新しい体験や講演会を企画、実施するなど、内容を更に良いものにする。	A	A	自分の進路について、生徒が自ら考え、選択できるように様々な働き掛けがなされていることは大変評価できる。令和4年度の卒業生の進学状況は素晴らしく、6ヶ年を見通した教育プログラムの良さが発揮されたものである。高2コース発表会の様子の報告から、コース制の取り組みがますます充実し、学校全体でこの新しい学びを大切にしていることが伝わってきた。更なる発展を期待したい。
	【実践と自己評価】 ①6月に野中ともよ氏による「未来への志を育む」講演会を実施。校内でのイベント「雙葉アカデミー」では様々な分野の講演会を実施。高1は10月に複数大学の先生方による出張講義を実施、11月には高1、2の希望者が早大先進理工学部の先生による講義に参加した。中三では卒業生に「市役所の仕事」について伺った。②高1より新課程の実施となり、進路講演会などの機会も活用し、情報発信している。			
	【学校関係者評価を受けて】 生徒の進路選択には、学習指導だけでなく、在校時の講演会や様々な体験学習が影響している。中3からのコース制の内容を更に充実させ、新しい講演会や体験を企画、実施していきたい。			
5	生命の安全確保 ①大規模災害に備え、総合的防災マニュアルを更に見直し、実践につなげる。 ②災害時、学校への宿泊を想定し、非常食やトイレ対策など防災備品の充実を図る。 ③年度計画に基づき、校内施設、設備の点検、特に防火設備、防災設備の点検を確実に実施する。 ④防災訓練は、様々な場合を想定してより実践的のものとなるように工夫し、生徒の防災意識と危機対応能力を高める。	B	A	防災マニュアルについては、常に見直し、現状に則したものにしていく必要があるが、大規模災害に備え、耐震性の高い校舎、防災備品の充実など、生徒が安心して学校生活を送れる体制が整っており、また、年度の計画に沿って、生徒有志による宿泊訓練など、意識の向上につながる活動がされているのでA評価で良いのではないかと。
	【実践と自己評価】 ①防災マニュアルの見直しについては、外部の人の避難を受け入れることは難しい事情があることが判明したため、改めて防災避難計画を作成することとした。②中一の防災用品については、早期発注することができた。③防災用品の在庫点検を冬休みに実施。今後、トイレ対策の再検討を行う予定。			
	【学校関係者評価を受けて】 防災マニュアルは、地震発生時に限定せず、様々な自然災害の発生も想定して見直しを継続したい。避難訓練等は、マンネリ化しないように新しい内容も入れるように工夫したい。			
(学校側のまとめ)		(学校関係者評価委員会のまとめ)		
日常生活においては、まだコロナ禍の影響が強く残る1年だったが、学校行事は久しぶりにほぼ予定通り実施でき、個々の行事の教育的意義を改めて実感できた。各学年の宗教行事や、精神面、学習面の成長を図るための学年経営計画の取り組みも、教員たちの熱心な準備と関わりにより着実に成果が上がっている。コース制での学びが生徒の未来を拓ききっかけとなるよう更に良いものになりたい。		宗教での学びもあり、社会貢献への取り組みにも躊躇なく行動を起こすことができる生徒が多く、それが当たり前になっている校内の雰囲気も日々感じられる。これらは学校側の努力の賜物であり、生徒が成長でき、安全で安心できる運営を行っていることを評価する。可能ならば、学校評価のための判断基準を明確にしたい。数値目標や目標期日などがあれば更に明確に判断できると思う。		